4 内分泌代謝内科

特　色

内分泌代謝内科は、下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患などの内分泌疾患と、糖尿病を中心とした代謝性疾患を中心に診療を行っています。

内分泌分野では、バセドウ病や橋本病などの甲状腺疾患が多く、甲状腺専門外来も設置し診療を行っています。下垂体疾患や副腎疾患は、臨床所見より内分泌疾患を疑うことから、診断につながります。内分泌疾患を疑った場合には、適切に負荷試験等の精査を行い、速やかに診断、治療が出来るよう心がけています。外科的治療が必要な場合には、脳神経外科、胸部乳腺外科、泌尿器科、放射線科など、他科連携しながら治療を行なっています。

代謝疾患の代表である糖尿病においては、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士によるチーム体制で診療を行なっています。外来には、毎日糖尿病指導の担当看護師１名が従事し、患者さん個人の生活に沿って糖尿病療養指導を行なっています。外来でのGLP-1受容体作動薬、インスリン製剤の導入にも積極的に取り組んでいます。また、１ヶ月に1回、週末３日間（金土日）で糖尿病教育入院を開催し、各スタッフが関わって、糖尿病に対する理解を深めていただける様に取り組んでおります。糖尿病診療で問題となる合併症に関しては、良好なコントロールを維持し、発症を防ぐだけでなく、眼科、腎臓内科、循環器内科、皮膚科など、他科とも連携をとり、早期診断、診療治療が出来るように心がけています。

当科は日本内分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設にも認定されています。今後も症例を積み重ね、地域の内分泌代謝疾患の診療に貢献できればと考えています。

対象疾患

甲状腺疾患：バセドウ病、橋本病、亜急性甲状腺炎、甲状腺腫瘍などを中心に診療しています。最近では免疫チェックポイント製剤irAEの甲状腺機能異常診療も多くなっています。

下垂体疾患：下垂体腫瘍、下垂体前葉機能低下症、尿崩症など、内分泌機能検査が必要とされた症例に、各種負荷試験による下垂体機能検査を行なっています。補充療法が必要な症例では補充療法を行います。成人成長ホルモン分泌不全症に対しての、成長ホルモン補充療法も行なっています。また、先端肥大症の術後再発や手術不能症例に対して、ソマトスタチンアナログ製剤や成長ホルモン受容体拮抗薬による治療を行なっています。

副腎疾患：二次性高血圧症のスクリーニングや、副腎偶発腫瘍に対して、副腎機能検査を行なっています。基礎値で異常を認めた場合は、カプトリル負荷試験、デキサメタゾン負荷試験などの負荷試験を行なっています。腫瘍性病変については、放射線科と連携し、副腎静脈サンプリングや各種シンチグラフィーを施行し、手術適応と考えられる場合は泌尿器科に紹介しています。

糖尿病：2型糖尿病、1型糖尿病、妊娠糖尿病、膵性糖尿病、ステロイド糖尿病等の治療を行なっています。病態や合併症などに考慮し、糖尿病治療薬（経口薬、GLP1受容体作動薬、インスリン製剤）を選択しています。持続血糖測定や、インスリンポンプ等の治療も積極的に導入しています。他科との連携のもと、合併症の早期発見、早期介入を目標としています。また、初めて2型糖尿病と診断された方には、短期入院での糖尿病教室を提案し、糖尿病への理解を深めていただくとともに、糖尿病治療食を体験していただいております。

診療実績

2021年度の外来総患者数は14,196名、入院総患者数は237人、新入院患者数193人、平均入院日数は9.1日でした。通常診療はかかりつけの先生のもとに通院し、当科には、合併症の早期発見や治療介入、画像のフォローの目的で定期的に受診していただく、循環型の地域連携を進めていきたいと考えています。

地域の先生方へ

当院では積極的に病診連携を進めています。現在3日間の糖尿病教育入院を月に一回実施しており、多くの患者さんに行動変容を起こすことに成功しています。また、糖尿病初期の教育指導が非常に重要と考え、外来での栄養指導も積極的に進めています。動脈硬化についての検査(CAVI、頸動脈エコー、血管エコー)は、当日に実施でき結果を送付することも可能です。日々の血糖、HbA1cのコントロールはもちろん重要ですが、1年あるいは数年に一度紹介していただければ患者さんの動脈硬化の状況を把握でき少しは治療方針にも役立つと考えます。遠慮なく地域医療室を通じてご紹介していただければ幸いです。